

県土の発展と県民の安全・安心に資する 道路整備の推進

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



- 災害脆弱性とインフラ老朽化を克服し、強靱で信頼性の高い道路ネットワーク構築のため、道路施策の強力な支援を図られたい。

1. 提案・要望内容

【提案・要望先】内閣府、総務省、財務省、国土交通省

(1) 県土の発展を支える道路整備のための予算枠の拡大

- 防災・減災、国土強靱化の更なる推進と生活・経済活動を支えるための道路予算枠の拡大、交付金枠の確保

(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

- 道路インフラ施設の予防保全を基本とした維持管理への転換に向けた財政支援
- 「いのち」を守る道路環境の形成への継続的な財政支援
- ポストコロナを見据えた観光づくりのための自転車利用環境への重点支援
- 公共施設等適正管理推進事業債の期間延長と交付税措置率の拡大
- 地方整備局等の体制の充実・強化

2. 提案・要望の理由

(1) 県土の発展を支える道路整備のための予算枠の拡大

- ミッシングリンクの解消やダブルネットワークの強化等により、平常時・災害時を問わず強靱で信頼性の高い道路ネットワークの構築を計画的に進め、地域の景気・経済を下支えするため、5か年加速化対策について、必要な予算を、別枠で安定的に確保するとともに、計画的な事業執行を図るための弾力的な措置が必要。
- モノづくり県である本県では、コロナ禍を経験し、生産拠点の国内回帰というサプライチェーンの再構築の動きがみられ、今後の経済回復や円滑な物流の確保に向けた、幹線道路ネットワークの更なる整備が必要。

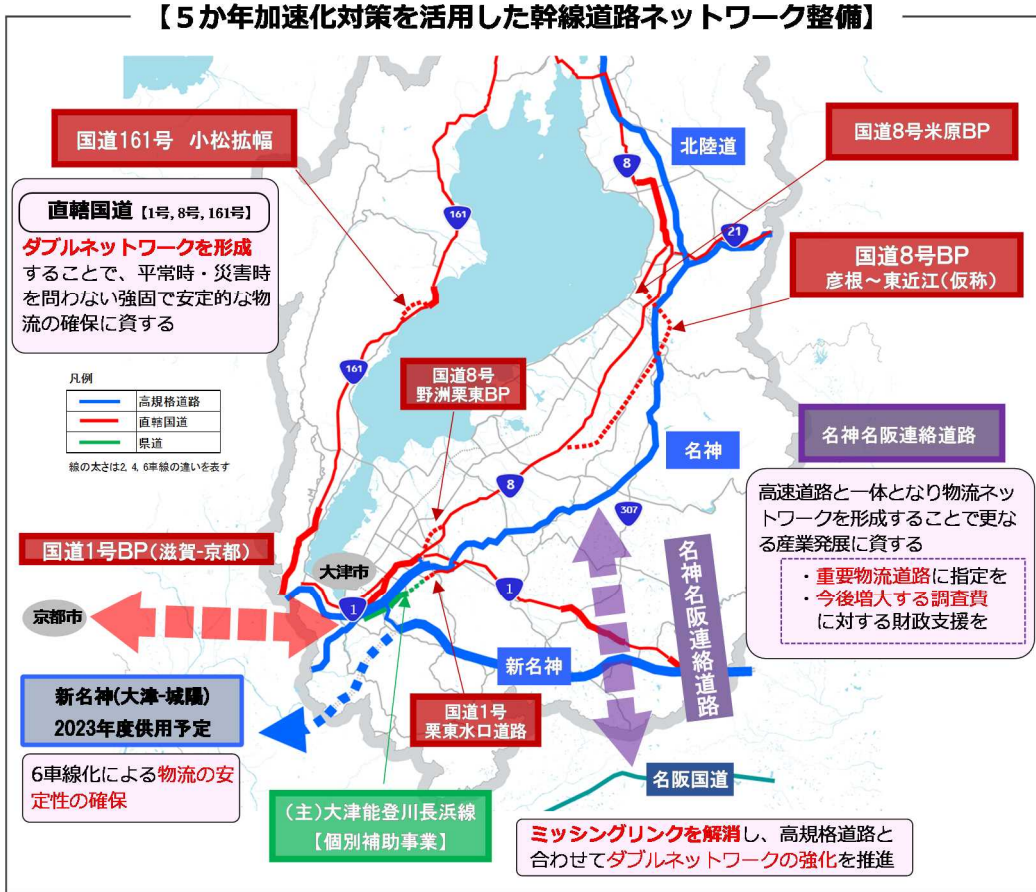
(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

- 道路インフラ施設の老朽化対策を着実に進めるため、改築系予算を確保しつつ、道路メンテナンス事業補助による重点的かつ集中的な財政支援が必要。
- 歩道整備などの安全安心な道づくりについて、計画的かつ集中的に推進できるような継続的な財政支援が必要。
- ポストコロナのキーコンテンツとして、世界に誇るナショナルサイクルルート「ピワイチ」の更なる地域ブランド、サービスの向上に向け、走行空間整備や案内標識等の取組に対する重点的な支援が必要。
- 今年度で期限を迎える道路施設の長寿命化事業に係る公共施設等適正管理推進事業債の延長と交付税措置率の拡大が必要。
- 激甚化・頻発化する自然災害に即応するための地方整備局等の体制の充実・強化および災害対応時に使用する資機材の更なる確保が必要。

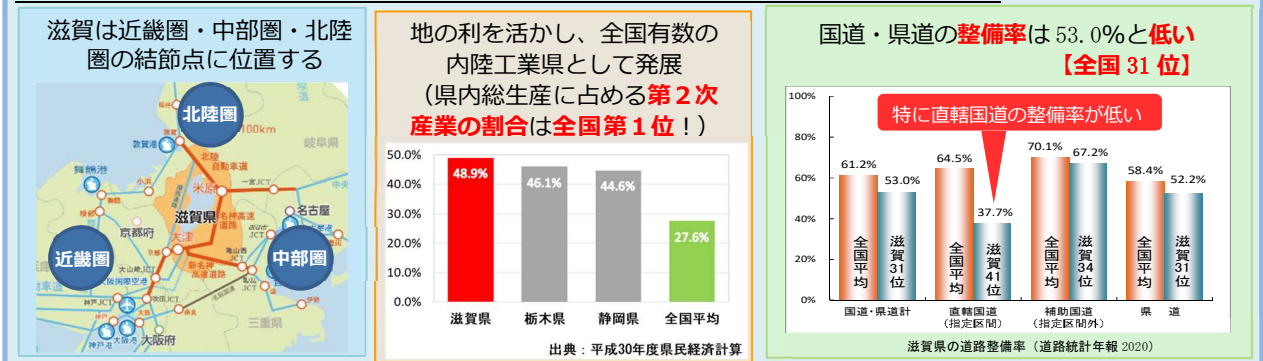
(本県の取組状況と課題)

(1) 県土の発展を支える道路整備のための予算枠拡大

- 令和3年4月に公表された「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム」で事業中の**直轄事業の開通見通し**（令和7年秋）が示された。
- 物流ネットワークの形成に資するため、**名神名阪連絡道路を重要物流道路に指定**するとともに、計画段階評価に向け今後増大する調査費に対する**財政支援**が必要。

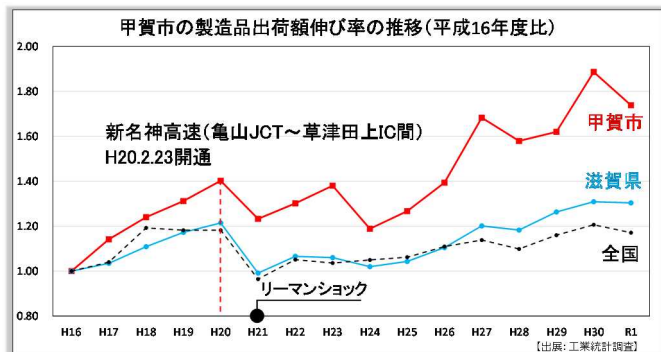


物流の効率化により、「モノづくり県滋賀」のポテンシャルを發揮することが可能！



【新名神高速道路開通 (亀山JCT～草津田上IC) によるストック効果】

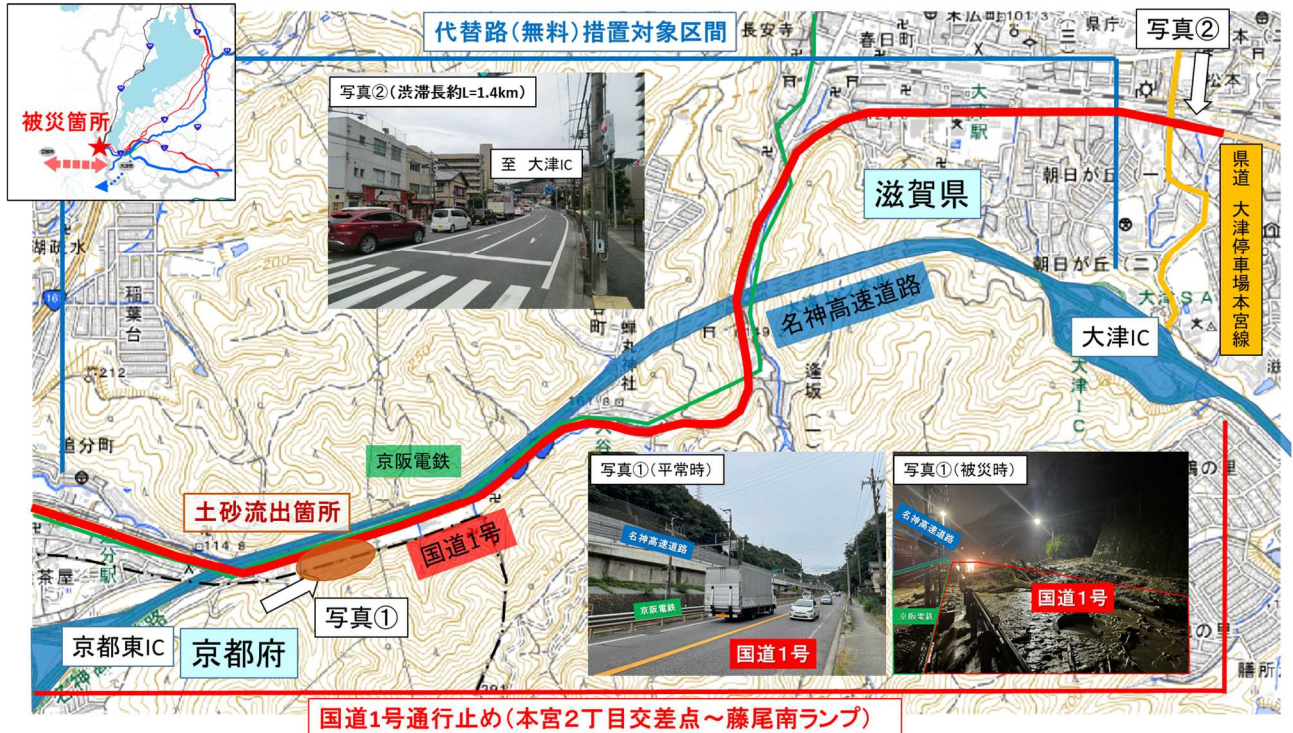
亀山JCT～草津田上ICの開通 (H20.2) に伴い、**甲賀市の製造品出荷額の伸び率は、滋賀県・全国と比較して高い水準で推移。**



(本県の取組状況と課題)

【国道1号（大津市逢坂地先）の通行止め被害】

- ・令和3年8月の大雨の影響により**国道1号に土砂が流出**し、府県境部で**通行止め**（8/14～8/19）
 - ・代替路として、並行する名神高速道路の京都東ICから大津IC間において、無料措置を実施されたものの、**ICへのアクセス道路を中心に渋滞が発生**し、**経済活動や県民生活に影響**。
- <参考：国道1号交通量 36,496 台/日（H27 センサス）>



【土砂災害対策の効果事例（国道306号）】

- ・令和3年8月の大雨では被災のあった平成28年6月降雨を上回る総雨量を観測したが、国土強靱化3か年緊急対策による法面对策を実施したことにより、**土砂災害を回避し、通行機能を確保**できた。
- ・滋賀県国土強靱化地域計画に位置付ける**法面对策等の事業箇所は多数**あり、強靱で信頼性の高い道路ネットワークの構築に向け、更なる**財政支援**が必要。



平常時・災害時を問わず、円滑な物流の確保に向けて、国道1号バイパス（滋賀・京都）など強靱で信頼性の高い道路ネットワーク整備がまだまだ必要！

担当：土木交通部道路整備課企画係、高速・幹線道路推進室 TEL 077-528-4132

(本県の取組状況と課題)

(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

○ 道路インフラ施設の予防保全を基本とした維持管理への転換

- ・ 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向け、早期対応が必要な道路施設（判定区分Ⅲ・Ⅳ）の**老朽化対策を加速化**するためには、**重点的かつ集中的な財政支援**が継続して必要。

【橋梁判定区分の内訳(県管理分)】

区間	点検結果 (H26~H30)	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
H26~H30	点検結果 (H26~H30)	2,889橋	191橋	1橋
			(滋賀県2m以上橋梁数:3,081橋)	
H31.4月	修繕結果 (H31.3時点)	2,962橋	119橋	
			(滋賀県2m以上橋梁数:3,081橋)	
R2.4月	1年目 (R2.3時点)	2,973橋	114橋	
			※Ⅰ・Ⅱ⇒Ⅲ遷移 84橋 (滋賀県2m以上橋梁数:3,087橋)	
R3.4月	2年目 (R3.3時点)	2,980橋	107橋	
			※Ⅰ・Ⅱ⇒Ⅲ遷移 78橋 (滋賀県2m以上橋梁数:3,087橋)	

【一巡目点検結果】判定区分Ⅲ橋梁：191 橋

- ・ H26~R2 修繕済橋梁：113 橋 (59%)
- ・ 着手済橋梁：44 橋
- ・ 未着手橋梁：34 橋 (R3 年度中に着手予定)

○ 「いのち」を守る道路環境の形成への継続的な財政支援

- ・ 関係機関が協力し、**通学路等の安全点検・対策**を進めているが、安全な社会を実現するために、より一層スピード感を持って危険箇所の安全対策を推進していくことが求められている。
- ・ 通学路を含む子どもたちが活動する一定の生活エリアにおいて、歩道整備に加え、通過交通を幹線道路に転換するための交差点改良やハンプ設置等を行う**地区内連携事業**、警察庁との新たな連携施策である**ゾーン30プラス**による総合的な対策を計画的に推進していくことが必要。



○ ポストコロナを見据えた観光づくりのための自転車利用環境への重点支援

- ・ ポストコロナのキーコンテンツとして、**世界に誇るサイクリングロードを目指す「ビワイチ」**では、自転車歩行者専用道路の整備や統一的な案内看板の設置など快適な自転車利用環境整備を推進中。
- ・ ナショナルサイクルルート「ビワイチ」の更なる地域ブランド、サービスの向上に向け、案内施設や通行空間の整備等を推進するための**財政支援**が必要。

中／初級者向けコース整備
家族連れゆっくりサイクリング



自転車歩行者専用道路

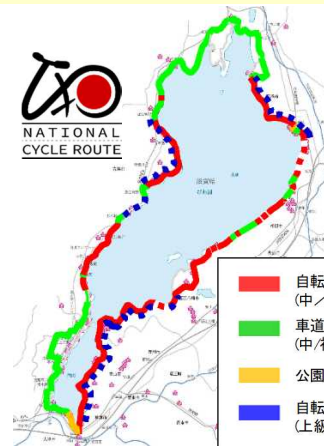
計画延長：100km (～R4 目標)
整備延長：88km (R2 年度末)

上級者向けコース整備
スポーツサイクリング等



自転車通行帯の整備

計画延長：30km (～R8 目標)
整備延長：5km (R2 年度末)



- 自転車歩行者専用道路 (中／初級者コース整備)
- 車道混在 (中／初級者コース整備)
- 公園内通路
- 自転車通行帯 (上級者コース整備)

※実線：施工済、点線：施工中

担当：土木交通部道路保全課防災保全係、歩行者・自転車安全係 TEL 077-528-4133